

令和3年度 放射線の健康影響に係る研究調査事業 実施研究一覧

テーマ1:健康管理に資する線量評価に関する研究

テーマ2:事故に係る身体面・心理面の健康影響及びそのメカニズムに関する研究

テーマ3:事故による放射線不安への対策に資する研究

テーマ1とテーマ2をまたがる研究

| No | テーマ | 年数 | 研究者名 | 所属 | 研究タイトル |
|----|-----|-----|--------|---|--|
| 1 | 1 | 3年目 | 鈴木 元 | 国際医療福祉大学クリニック | 大気拡散シミュレーションによる時間空間放射能データベースを用いた避難行動パターン毎の初期線量評価 |
| 2 | 1 | 3年目 | 吉田 浩子 | 東北大学大学院薬学研究科 ラジオアイソトープ研究教育センター | 被ばく線量に影響を及ぼす住家内外の要因に関わる研究 |
| 3 | 1 | 3年目 | 佐々木 啓一 | 東北大学大学院歯学研究科 | 乳歯を用いた福島県在住小児の被ばく線量評価事業 |
| 4 | 1 | 2年目 | 小林 光 | 東北大学大学院工学系研究科 | 人工被覆面の放射能深度分布調査及び空間線量率への影響に関する研究 |
| 5 | 1 | 2年目 | 吉村 和也 | 日本原子力研究開発機構 福島研究開発部門 福島環境安全センター 放射線監視技術開発グループ | 市街地の空間線量率の経時変化に対する人為的な影響に関する研究 |
| 6 | 1 | 新規 | 栗原 治 | 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 | 個人避難行動及び大気拡散シミュレーションに基づく福島第一原発事故における住民の初期内部被ばく線量推定の精緻化に関する研究 |
| 7 | 1 | 新規 | 細田 正洋 | 弘前大学 大学院保健学研究科 放射線技術科学領域 | 浜通り地域を対象とした帰還住民の天然および人工放射性核種からの被ばく線量調査 |
| 8 | 1・2 | 新規 | 盛武 敬 | 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 | 複数の生物学的指標を組み合わせた長期放射線影響の予測と社会実装に向けた取り組み |
| 9 | 2 | 3年目 | 中島 裕夫 | 大阪大学 放射線科学基盤機構 | 動物実験を用いた慢性的低線量内部被ばくによる突然変異と発がんの非相関性のメカニズム解明 |
| 10 | 2 | 3年目 | 鈴木 眞一 | 福島県立医科大学 | 事故後に発見された小児若年者甲状腺疾患のメカニズムに関する研究 |
| 11 | 2 | 3年目 | 鈴木 正敏 | 東北大学 災害復興申請研究機構 | 不溶性セシウム粒子による生物影響の解明に向けた分野横断的共同研究 |
| 12 | 2 | 3年目 | 今岡 達彦 | 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 | 動物モデルと数理モデルを用いた放射線発がん線量率効果が生じるメカニズムの解明 |
| 13 | 2 | 2年目 | 大平 哲也 | 福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター | 原子力発電所事故後の避難住民・帰還住民における健康寿命に関わる震災関連要因とそのメカニズムについての疫学研究 |
| 14 | 2 | 2年目 | 坪倉 正治 | 福島県立医科大学 | 原発事故後10年間における地域住民の二次的健康影響の総括、および今後の医療・介護ニーズの推定に関する研究 |
| 15 | 2 | 2年目 | 光武 範吏 | 長崎大学 原爆後障害医療研究所 | ロングリード解析を用いた放射線刻印の同定と福島小児甲状腺癌への応用 |
| 16 | 2 | 新規 | 祖父江 友孝 | 大阪大学大学院医学系研究科 | 福島県内外の疾病動向の把握に関する調査研究 |
| 17 | 2 | 新規 | 権藤 洋一 | 東海大学 医学部 基礎医学系 分子生命科学領域 | 低線量長期被ばくマウスおよび細胞の超高感度変異検出に基づく放射線影響と変異誘発機構の解析 |

| No | テーマ | 年数 | 研究者名 | 所属 | 研究タイトル |
|----|-----|-----|--------|-------------------------------------|--|
| 18 | 2 | 新規 | 鈴木 啓司 | 長崎大学 原爆後障害医療研究所 | ゲノム変異シグネチャー解析で紐解く低線量放射線の発がん寄与割合とメカニズム |
| 19 | 2 | 新規 | 臺野 和広 | 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 | 被ばくの分子指標を用いた低線量・低線量率放射線によるがんリスクの直接評価 |
| 20 | 2 | 新規 | 吉岡 研一 | 国立がん研究センター研究所 ゲノム安定性制御研究ユニット | 放射線による“ゲノム不安定性・がん”のリスク上昇メカニズムと、リスク診断法・制御法の研究 |
| 21 | 3 | 3年目 | 竹西 亜古 | 兵庫教育大学大学院 | 放射線イメージ表現を用いた科学的情報発信の有効性 |
| 22 | 3 | 3年目 | 宇野 賀津子 | ルイ・パスツール医学研究センター | 3.11以降の放射線関連情報のtwitterによる拡散研究を基にSNS時代に即した、大規模災害時に科学的事実に基づいた情報をリアルタイムに発信していく方策の研究 |
| 23 | 3 | 3年目 | 後藤 あや | 福島県立医科大学 総合科学教育研究センター | 帰還住民を持続的に支援可能なアプリケーションの開発 |
| 24 | 3 | 2年目 | 小杉 素子 | 静岡大学学術院工学領域事業開発マネジメント系列 兼 担防災総合センター | メンタルモデル比較を用いた放射線リスク情報の提供と対話方法の提案 |
| 25 | 3 | 2年目 | 高村 昇 | 長崎大学 原爆後障害医療研究所 | 大熊町、富岡町におけるリスクコミュニケーションを通じたリスク認知、メンタルヘルスの経時的変化の評価 |
| 26 | 3 | 新規 | 平井 啓 | 大阪大学大学院 人間科学研究科 | 放射線に対する恐怖・不安により生じる行動のメカニズムと心理学・行動経済学的制御に関する研究 |
| 27 | 3 | 新規 | 田中 健次 | 電気通信大学 大学院情報理工学研究科 | セカンドプレイスでの放射線リスクコミュニケーションの実現 |